受領No. 1650

HPV ワクチン接種対象者の意思決定に影響する価値観の調査・分析

代表研究者　広瀬　一隆（京都府立医科大学　博士課程学生）
共同研究者　瀬戸山晃一（京都府立医科大学　教授）

Survey and analysis of values that influence the decision-making of those targeted for HPV vaccination

Representative　Kazutaka Hirose (PhD student, Kyoto Prefectural University of Medicine)
Collaborator　Koichi Setoyama (Professor, Kyoto Prefectural University of Medicine)

研究概要

世界保健機関（World Health Organization: WHO）によると、世界では毎年約 69 万人が、子宮頸がんなどヒューマンパピローマウイルス（Human papilloma virus: HPV）を原因とするがんに新たに罹患している（WHO、2024）。HPV 感染を防ぐにはワクチンが有効だが、日本では 2013 年 4 月に小学 6 年から高校 1 年相当の女性を対象として定期接種に導入されてから、副反応の疑惑を伝える報道が相次ぎ、政府は約 9 年間、積極的勧奨を停止した。現在、積極的勧奨は再開され、その停止により接種機会を逃した者を対象に、時限的に従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を助成する「キャッチアップ接種」が実施されている（厚生労働省、2024）。

HPV ワクチンの望ましい接種率がどの程度かについては議論が必要だが、ワクチン懐疑派と推進派で激しい論争を経た中、現状においてもワクチン接種対象者の自己決定が妨げられている可能性は否定できない。接種対象者が接種の可否を判断するときの指標となる倫理的枠組みが求められていると言える。本研究では、HPV ワクチンのキャッチアップ接種の対象者に質問紙調査とインタビュー調査を行い、接種の可否を判断する際の個々人の判断基準を抽出する。それによって、公衆衛生政策を実施する側や医療者の意向を離れ、各人の価値観を尊重した柔軟なワクチン接種の倫理を探索し、各自の自己決定において参照可能な倫理的枠組みを提示する。

WHO. 2024: Human Papillomavirus And Cancer.
https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/human-papilloma-virus-and-cancer　2024 年 8 月 25 日閲覧
厚生労働省．2024．「HPV の接種を逃した方に接種の機会をご提供します」.
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000918718.pdf　2024 年 9 月 3 日閲覧